

想いの数だけ、新しい答えはきっとある。

東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies



東京外国語大学の知を生かした社会貢献

TUFSオープンアカデミー

<https://tufsoa.jp/>



一般の方を対象にしたエクステンション講座として、本学の特色を生かした多言語(約50言語)の語学講座や世界を知る教養講座を開講しています。2020年度からオンラインの双方向型講座を開始し、国内外で年間延べ4,000名を超える方にご利用いただいています。

TUFS言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/>



27の言語教材をインターネット上にて無料公開しています。英語以外の言語教材は、大学生が新しい外国語を学ぶ際に使用する教材レベルを想定しています。東京外国語大学の教員、大学院生および学外協力者を含む100名以上の協力により開発されました。

TUFS media ～日本語で読む世界のメディア～

<http://www.el.tufs.ac.jp/tufsmmedia/>



アラビア語、ペルシア語、トルコ語で報じられた中東の新聞記事、ビルマ語、ベトナム語、インドネシア語による東南アジアの新聞記事、ベンガル語やウルドゥー語による南アジアの新聞記事を、本学学生・大学院生が翻訳しインターネットで発信。世界の人々の生の声を、日本の社会に届ける活動です。

校章



1899(明治32)年、制定。炬火(たいまつ)は、「光は世を照らす」ことを意味し、Lはラテン語のLinguaの頭文字です。左右の羽翼については、1899(明治32)年の本学独立当初に教授した8語学科を意味しているといわれています。

スクールカラー



本学のスクールカラーである「牡丹色」。その由来は、1920(大正9)年にさかのぼります。当時、新たに結成された日本漕艇協会の求めに応じ、加盟各学校は学校色を登録しました。以来、この色は本学のスクールカラーとして親しまれています。

東京外国語大学基金

東京外国語大学は、1873年の建学以来、一貫して世界の言語・文化・社会に関する高度な教育を実践し、国際的に活躍する多くの人材を輩出してきました。東京外国語大学の果たすべき役割は、現在、さらに重要なものとなっています。世界でも日本でも、異なる文化的背景を持つ人々の共生が不可避となっているからです。世界の言語・文化・社会に関する本学の教育・研究は、多文化共生のための基盤となるものです。本学の教育・研究の更なる発展に期待をいただき、皆様からの温かいご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

東京外国語大学 基金事務局 TEL:042-330-5126

Email:tufs-fund@tufs.ac.jp <http://tufs-fund.jp/>



国立大学法人
東京外国語大学
<http://www.tufs.ac.jp>

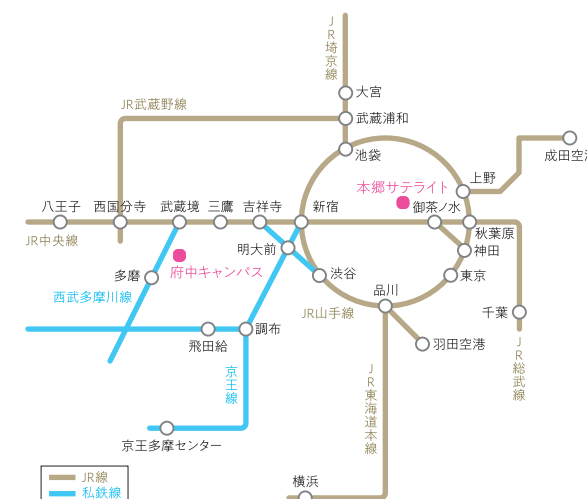


府中キャンパス

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
Tel: 042-330-5111

本郷サテライト

〒113-0033 東京都文京区本郷2-14-10
Tel: 03-5805-3254



東京外国語大学のビジョン

多様性を力に変え、多文化共生に寄与する東京外国語大学へ

東京外国語大学は、150年に及ぶその歴史を通じ、世界の言語・文化・社会を深く掘り下げ、研究によって得られた知見を社会に還元し、日本社会の国際化に寄与してきました。

人材育成の分野では、学部や大学院の教育を通じ、日本と世界を結んで活躍する人材の育成に力をおき、戦前においては日本の近代化に、戦後においては日本の経済成長や国際的なプレゼンスの向上に貢献する多くの人材を輩出してきました。

21世紀の現在、本学が果たすべき役割には大きな変化が生じていました。世界の一体化、価値観の多様化、それへの負の反応としての社会における分断や格差、差別やレイシズムの深刻化が同時に進行する現在、本学が教育・研究の対象とする世界に関する知見は、人々の共生に不可欠なものとなっています。

大学の使命は、地球社会における人々の共生に貢献することにあります。すなわち、大学は、その研究により、文化の差異と共生の仕組みを明らかにし、その教育を通じ、寛容でインクルーシブな社会の実現に向けた課題解決に資する人材を育成し、さらに社会貢献を通じ、大学に期待される分野で異なる背景を持つ人々の共生に向けた方策の実装に力を尽くさなくてはなりません。

本学の教育・研究が生み出す未来に向けた社会変革への活力を可視化・活性化し、大学をあげて、その社会での実装に努めていきます。



建学150年の歩み ～TUFSの歴史と社会へ果たしてきた役割～

東京外国語大学は、江戸時代に幕府により開校された蕃書調所をその起源とし、東京外国語学校、東京外事専門学校、東京外国語大学とその名称を換えながらも、150余年の長きにわたり外国語と外国地域事情に関する教育と研究を実践してきました。

大学の歴史											建学 東京外国語学校 (官立)が開設	東京商業学校へ統合	創立 高等商業学校に 附属外国語学校 が創立	独立 東京外国語学校 が独立	学科の名称を部に 改め、部に文科・貿 易科、拓殖科を設置	東京外事専門学校 へ改編	東京外国語大学が 発足	留学生別科の設置	アジア・アフリカ 言語文化研究所を 設置	大学院修士課程を 設置	附属日本語学校を 設置	大学院博士課程(前 期・後期)を設置	府中キャンパスへ 移転	外国語学部を改編 し、言語文化学部、 国際社会学部を設置	国際日本学部を 設置						
	1853	1857	1873	1885	1894	1896	1897	1899	1904	1914	1919	1939	1944	1945	1947	1949	1951	1954	1955	1961	1964	1966	1968	1970	1973	1979	1991	1992	2000	2004	2012
社会変遷	ペリーが浦賀に来航		幕府により蕃書調 所を開設		日清戦争勃発	帝国議会において 外国語学校の開設 を建議		日露戦争勃発	第一次世界大戦勃発		第二次世界大戦終戦	第二次世界大戦勃発		第二次世界大戦終戦	学校教育法施行	国立学校設置法の 施行(新制大学)	サンフランシスコ平 和条約締結		アジア・アフリカ会議 (バンドン会議)	日本学術会議が共 同利用研究所を設 立するよう政府に 勧告			学園紛争		第四次中東戦争 (石油危機)	ソ連崩壊				国立大学法人の施行	
役割	翻訳などができる人材の 育成を目的に誕生			海外事情に精通 する人材の養成			陸海軍の求めに応じ軍事通訳の養成に協力 アジアを中心とする各方面への商人・企業 家の海外進出を支援			教育体制の改革により外国語 と外国事情の双方の教育・研 究を柱に学術基盤を整備			「外国の言語とそれを 基底とする文化一般」 の研究・教授を目指す			外国語への関心の高まりと 日本の経済発展に伴い、学 科を増設し、学生数も増加			わが国最初の人文科学・社会科学系共同 利用研究所を設立			日本有数の海外地域研究の拠点として発展 日本の国際社会復帰に伴い、国際社会への 貢献を目的に、外国人留学生の受け皿となる			外国語と世界の諸 地域に通じた専門家の 養成を目指す 理念は連綿と受け継 がれ、多くの卒業生が 修得した言語と教養 を武器に世界へと羽 ばたいています						

すぐにわかる 東京外大

キャンパス移転直前の1999年のデータと合わせてご覧ください。

主な教育・研究等組織

<http://www.tufs.ac.jp/institutions/>

組織一覧



言語文化学部

世界の多様な地域の人々の言葉に直接ふれることで、ものの考え方や価値観、世界観について学びます。互いに異なる言語と文化のなかで暮らす私たち人間が、相互に認め合い、理解しあって生きてゆくための力や知識、感覚を身につけていきます。

国際社会学部

世界の現状を正しく把握・分析し、問題の所在をつかみ、日本をはじめとする国際社会がどのように問題解決に関わり、いかにして異なる宗教・民族・文化への公平性を確保するのかを、具体的な地域の問題を取り上げて、国際的な視座から考える方法を学んでいきます。

国際日本学部

日本の政治・経済・社会・歴史・文学・文化・言語と幅広く学びながら、各分野を超えた多角的な視点で日本を捉えることで、世界の中に位置づけて私たちが暮らす日本という国を学びます。また、世界で日本語を教えるための知識も身につけていきます。

多言語多文化
共生センター

ワールド・
ランゲージ・
センター

南アジア
研究センター

現代
アフリカ地域
研究センター

国際日本
研究センター

語学
研究所

総合文化
研究所

海外事情
研究所

国際関係
研究所

留学生
日本語
教育センター

大学院総合国際学研究所

高度な言語運用能力や学際的応用力等を備え、国際社会に寄与する実践的知識と技法を習得し、世界や日本でグローバルに活躍することのできる人材を養成しています。

博士前期課程 世界言語社会専攻／国際日本専攻

博士後期課程 世界言語社会専攻／国際日本専攻／共同サステナビリティ研究専攻

アジア・アフリカ言語文化研究所

1964年にわが国最初の人文科学・社会科学系共同利用研究所として東京外国語大学に設置されました。アジア・アフリカの諸地域を主な研究対象とし、言語学・人類学・歴史学・地域研究の各分野において、下記の3つの使命のもとに活動を展開します。

1…臨地研究(フィールドサイエンス)に基づく共同研究の推進

2…研究資源の収集・分析・編集および研究成果の発信

3…共同研究や研修・セミナー等を通じた次世代研究者の養成

校地面積

参考 1999年

北区(西ヶ原キャンパス)

45.130m²

2021年

府中キャンパス

133.028m²

附属図書館の蔵書数

参考 1999年

和漢書 209,354冊

洋書 289,820冊

499,174冊

2021年

和漢書 330,982冊

洋書 475,522冊

製本雑誌等 69,521冊

280言語

876,025冊

留学生受入数 2019年度実績

参考 1999年

世界35ヵ国・地域から484名

2019年

世界80ヵ国・地域から

827名

(正規生432名含む)

※2021年度は新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受けました。

学生数

学部生

2021年

3,801名

参考 1999年 3,765名

大学院生

2021年

517名

参考 1999年 465名

教職員数

役員等・教員・職員

2021年

役員等 9名

教員 247名

職員 136名

(役員5名含む。外国人教員数42名)

計 392名

参考 1999年

計 377名

外国人教員

2021年

42名

全教職員に対する比率

国立大学平均 (2020年度) 5%

東京外国語大学 17%

女性教員

2021年

107名

全教職員に対する比率

国立大学平均 (2020年度) 18.2%

東京外国語大学 43.3%

※参考:国立大学平均は、国大協広報誌「国立大学」別冊19号(2021)「データで見る国立大学」より

留学派遣数 2019年度実績

短期留学 720名

長期留学 816名

(出発者数・帰国者数の計)

2019年3月に卒業した日本人学生の

75.1% が在学中に留学を経験

参考 1999年

派遣者数 38名

(大学間交流協定による派遣者数)

※2020年度は新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響により、留学派遣を見送りました。

科学研究費補助金

採択プロジェクト数

4.3倍

参考 1999年

38件

2021年

165件

採択率

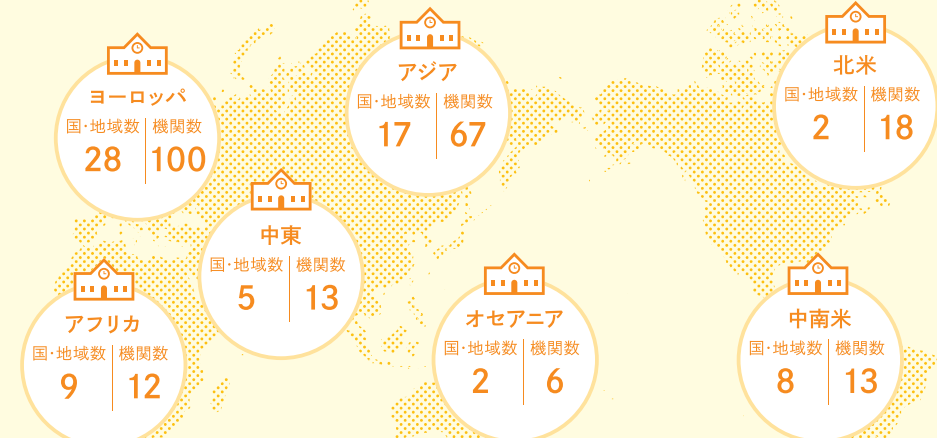
全国

3位

46.7%

※国立大学平均(2020年度) 29.7%

海外協定校数 (2021年5月現在)



2021年

71ヵ国・地域

229機関

参考 1999年

29ヵ国・地域

44機関

4.2倍

海外拠点数

2021年

20拠点

参考 1999年

0拠点

・韓国 ・ミャンマー ・南アフリカ ・英国 ・リトアニア
・台湾 ・オーストラリア ・ルワンダ ・スペイン ・ロシア
・中国 ・エジプト ・ウクライナ ・セルビア ・ブラジル
・マレーシア ・レバノン ・オランダ ・トルクメニスタン ・メキシコ
(Global Japan Office/Desk 18拠点、その他2拠点)

学べる言語数

80言語

主専攻語 : 28言語

主専攻語以外: 52言語

外国語による授業科目数

200科目

比率 15.5%

アジア・アフリカ言語文化研究所オンライン研究資源

131件

公開講座

2021年

53言語 415講座

参考 1999年

3言語5講座

410講座増

(2021年10月1日現在)

410講座増

4,432名受講

(2021年10月1日現在)

参考 1999年

3言語5講座

410講座増

(2021年10月1日現在)

参考データ: 2021.5.1現在のデータ最新情報はこちらをご覧ください。
<http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/pr/data.html>

